



改憲の最大ターゲットは どこにあるのか

-天皇制と憲法 24 条から考える-

講演：清末愛砂氏 (室蘭工業大学大学院准教授)

1950年代から始まった改憲運動。護憲平和運動は保守改憲勢力が唱える9条改憲・正規軍の設置を目指す動きを危惧し、その反対を訴えてきた。9条改憲は当時から現在まで続く大きなターゲットではあり続けてきたことは確かであるが、実のところそれ以上に狙われてきたのは象徴天皇制を軸とする天皇条項と憲法24条であった。本講演では、保守改憲派の憲法観や令和ブームに着目しながら、これらの条項が狙われてきた理由、そして安倍自民党がめざす明文改憲が社会に与える影響について、とりわけジェンダー視点から考えたいと思う(講師より)。

12:00 受付
12:30~12:50 開会礼拝
13:00~14:30 講演
14:30~15:55 質疑応答
15:55~16:00 連絡・閉会



講師プロフィール

1972年生まれ。山口県周南市出身。大阪大学大学院助手、同助教、島根大学講師を経て、2011年11月より室蘭工業大学大学院准教授。憲法24条、アフガニスタンのジェンダーに基づく暴力、シンガポール家族法、DV法制等を研究している。最近の著書として、『公文書は誰のものか?』(共編著、現代人文社、2019年)、『自衛隊の存在をどう受けとめるか』(共編著、現代人文社、2018年)、『右派はなぜ家族に介入したがるのか』(共著、大月書店、2018年)等がある。学生時代に受洗。キリスト者として平和の問題に取り組んでいる。



■ 2019年7月15日(月曜・海の日) 12:30~16:00

■ 日本キリスト教会札幌琴似教会にて

[JR琴似駅徒歩4分。札幌市西区八軒2条西1丁目3-1 Tel011-641-3088]

■ 参加・入場無料 一般市民の方々のご来会を歓迎。P有

主催 日本キリスト教会北海道中会 ヤスクニ・社会問題委員会

問い合わせ 011-811-6838 札幌豊平教会 (いのう)